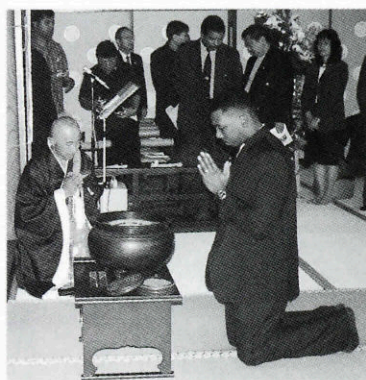


古式捕鯨を訪ねて

IWC加盟国代表12人が長門の鯨文化を体感

国際捕鯨委員会（IWC）関係のシンポジウムに出席のため日本を訪れていたニュージールランドやモンゴル、パラオなど10カ国の代表12人と水産庁や日本鯨類研究所など日本側のIWC関係者7人が17日と18日の両日、古式捕鯨の伝統文化に触れるため長門市を訪れました。

一行は17日、くじら資料館の白石館長の案内で資料館と鯨墓を見学した後、仙崎の八坂神社にある捕鯨絵図を見学しました。翌18日は、通商岸寺で行われた鯨回向に参列し、午後からは通地区の中学生、高校生の代表17人との交流会に出席しました。鯨回向では、通鯨唄保存会による鯨唄が披露され、各国の代表も地元の人たちにまじって焼



香を体験しました。一行に同行した小松正之水産庁漁場資源課長は「通には世界に誇れる鯨回向、鯨墓、鯨鮓過去帳の3つの財産があり、将来にわたり傳承して欲しい」と述べ、一行を代表してドミニカ共和国のロイド・パスカルさんが「伝統ある行事に立ち合えて、人間だけでなく動物の命にまで敬意を払うことを学ぶことができ感謝しています。ドイツでのIWC会議では捕鯨再開に向け全力を尽くしたい」とあいさつしました。また、交流会では、生徒たちが「捕鯨禁止についてどう思うか」「どのように料理して鯨を食べるか」などと各国代表に質問を投げかけ、捕鯨についての考え方や鯨の食文化などについて意見を交換しました。

金子みすゞ記念館オープン2週間目 入館者が1万人を突破

金子みすゞ記念館の入館者がオープン2週間目の4月25日、1万人を突破しました。1万人目の東京都中野区在住の絹谷錫子さん（70）には松林市長から記念品が手渡されました。この日、友人2人と同館を訪れた絹谷さんは「記念館がオープンしたらぜひ仙崎を訪ねてみたいと思っていました。まさか1万人目とは」と喜んでいました。記念館には4月11日のオープ



長門地区暴力追放運動協議会

運動協議会

5月14日、平成15年度長門地区暴力追放運動協議会総会が長門商工会議所会議室で開催され、長門市と大津郡3町の関係者約50人が出席し、暴力に對して民間と行政が一体となった取り組みを進めていくことを確認しました。



全国大会出場 おめでとうなびがいます

第18回全国選抜ゲートボール大会（5/17、18・栃木県宇都宮市）に出場する「長門みすゞ」チームの激励会が5月2日、市役所で行われました。（敬称略）

- 【監督】 田越 郁代
 【選手】 宮本 辰美
 長 治作
 金子二三
 宮本 義人
 仲野 弘
 田越 英治
 田中 一令

